

ごあいさつ

日本心臓リハビリテーション学会

第6回近畿地方会 会長

古川 裕

神戸市立医療センター中央市民病院 循環器内科

日本心臓リハビリテーション学会第6回近畿地方会を令和3年2月20日（土）に開催させていただくことになりました。

本会の開催日が決まったときには、現在のようなコロナ禍は予想もできず、神戸国際会議場での通常開催の予定でしたが、未だ終息の兆しが見えない COVID-19 流行のため、近畿地方会としては初めての全面 WEB での開催となりました。

現在、多くの医療機関が COVID-19 流行下での困難な診療を強いられています。そのような状況だからこそ、心リハによる心血管疾患の二次予防を含む、その他の医療を疎かにすることなく提供する努力が求められています。

心リハは、皆が他の職種にできることを十分理解し、それぞれの役割を果たして多職種の力を結集させ、急性期から回復期、地域での維持期（慢性期）まで、一貫性のあるシームレスな疾病管理を行うための鍵となると考えています。

今回の近畿地方会では、“心リハでつなぐ”というテーマのもと、心リハが心血管疾患の患者さんを中心に医療者、医療機関、社会をつないで、より良い医療を提供するための情報やヒントを提供できればとの考えのもとに、セッションを企画しました。

特別講演では、野原隆司先生に、「地域医療を支える心臓リハビリテーションとは」という、まさに本会のテーマに相応しい演題でご講演いただきます。また、教育講演では、がん診療の進歩により、心血管疾患の管理とがん治療を両立させなければならない患者さんや、がん治療により心血管合併症を生じたがんサバイバーなどが増えたことから生まれた腫瘍循環器リハビリテーションについて、佐瀬一洋先生にご講演いただきます。

その他、いくつかの観点から、心リハの“つなぐ”という役割にフォーカスしたシンポジウムを予定しました。また、WEB 開催にも関わらず、多くの優れた一般演題もご発表いただけることになりました。

本地方会が、円滑な連携を難しくさせるコロナ禍の今だからこそ、心リハおよび心血管診療における連携の重要性を見直し、心血管疾患の二次予防の臨床、研究、教育の向上への一つの機会をご提供できればと願っております。

最後に、本会開催に際し、ご協力ご支援くださいました関係各位に心より感謝申し上げます。